

## 仲間の首を切られて黙っていられるか！ 蒲郡駅事件第2回公判傍聴券 獲得に160名の仲間 が結集

7月23日、蒲郡駅事件第2回公判が名古屋地裁で開かれました。

当日は36度を越す猛暑の中にもかかわらず、組合員・OB・JR総連の仲間が60名分の傍聴券を得るために長時間並び、加藤誠二さんの闘いと連帯をした。



### 今回の公判の要点

会社が決定的な証拠としているビデオの上映と鑑定人の証人尋問で、その内容は

- ・加藤さんが勤務中にどのような動きをしているのか。
- ・蒲郡駅から窃取されたとしている文書と東海労がH.Pに掲載した文書が同じかどうかというものでした。

### 動かぬ証拠というのは・・・？

証拠のビデオに写る加藤君の姿が5～6分映された。そこには真面目に仕事をする加藤君の姿しか見えず、また科捜研から文書を鑑定した鑑定人は、特殊な過程をへて鑑定したの点を強調していたのですが、なんと紙の鑑定は今回がはじめてであったことが弁護士の追及で明らかになりました。傍聴席からはたびたびどよめきがもれ、何が何でも犯人に仕立て上げる検察の姿勢がはっきりしました。

### 報告集会では全国の仲間から力強い連帯の挨拶

公判終了後、桜花会館に160名が結集し報告集会が開催されました。

裁判を傍聴したJR総連の仲間たちからは「この事件は加藤さんへのデッチ上げ窃盗であることが明確だ！」と力強く連帯の挨拶と檄を受け、弁護士による裁判のポイントに続き、加藤誠二さんの決意と奥様から傍聴の感想と今後も支援をお願いしますと挨拶を受けました。

最後に鈴木委員長の団結頑張りうで終了しました。



**次回の第3回公判は2008年9月4日（木）13:15～**